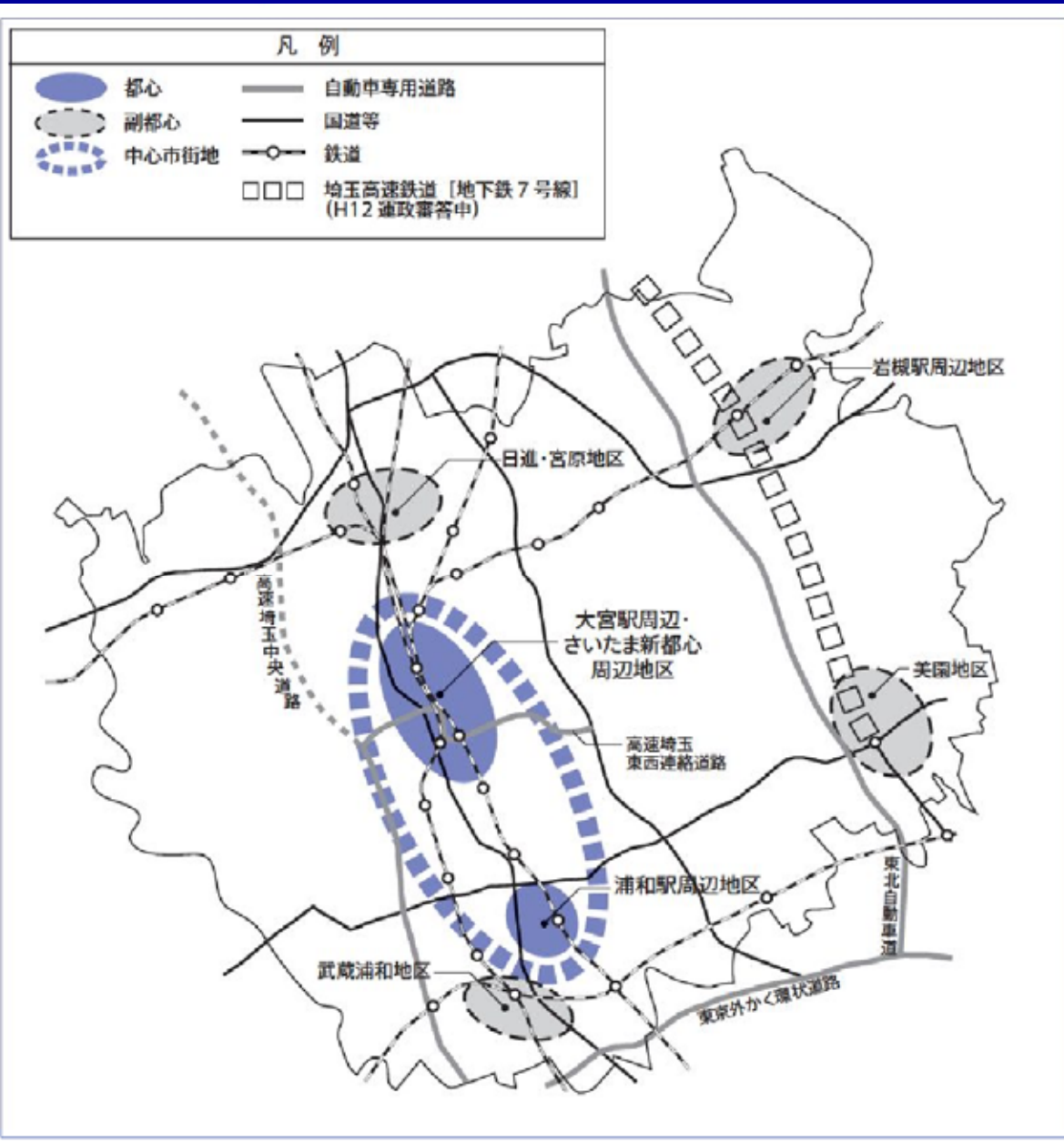


議事(1)

延伸線地域の状況

さいたま市総合振興計画 (策定年:平成18年1月)

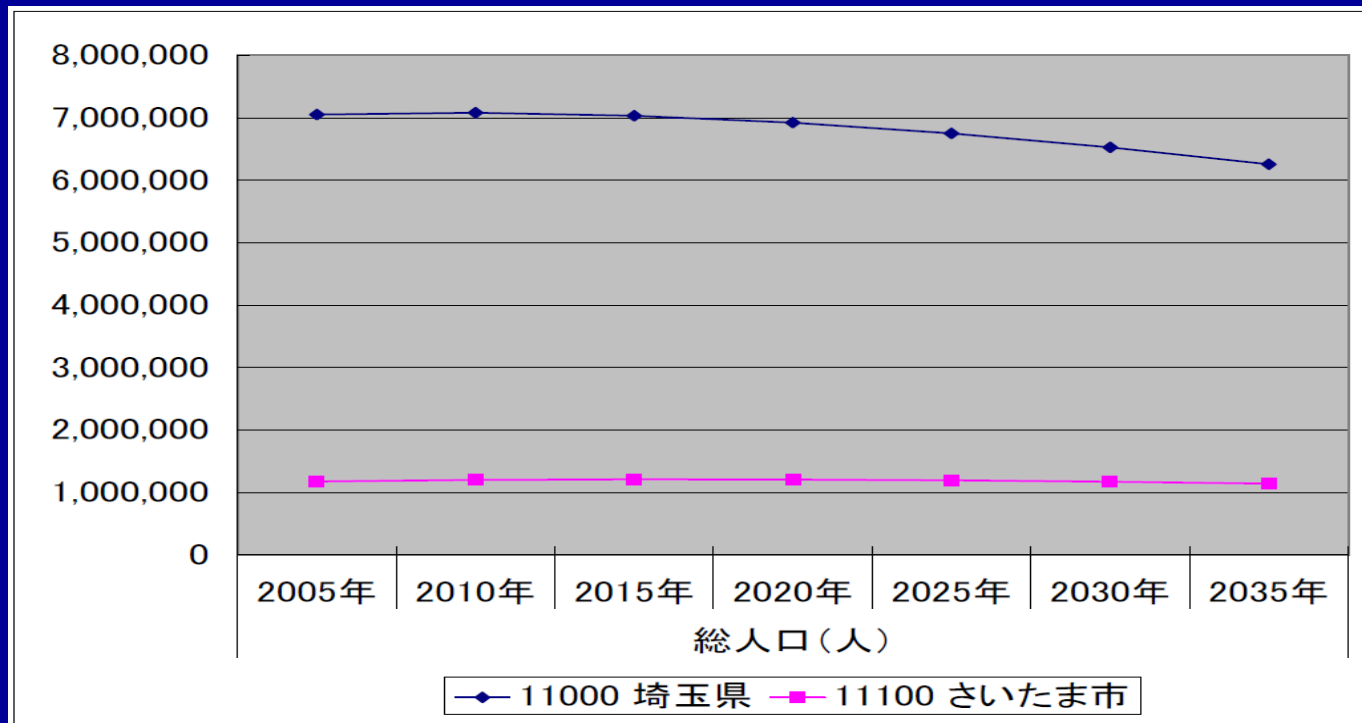


- 中間駅の隣駅になる「浦和美園駅周辺」と「岩槻駅周辺」は、多核連携型の都市構造を実現に向けた拠点としての形成を図るような『副都心』として位置づけられている。



延伸線全体の現状と課題

さいたま市の将来人口推計



※将来の埼玉県・さいたま市における人口および指数(平成17年=100とした場合)

将来の市区町村別人口および指数(平成17年=100とした場合)

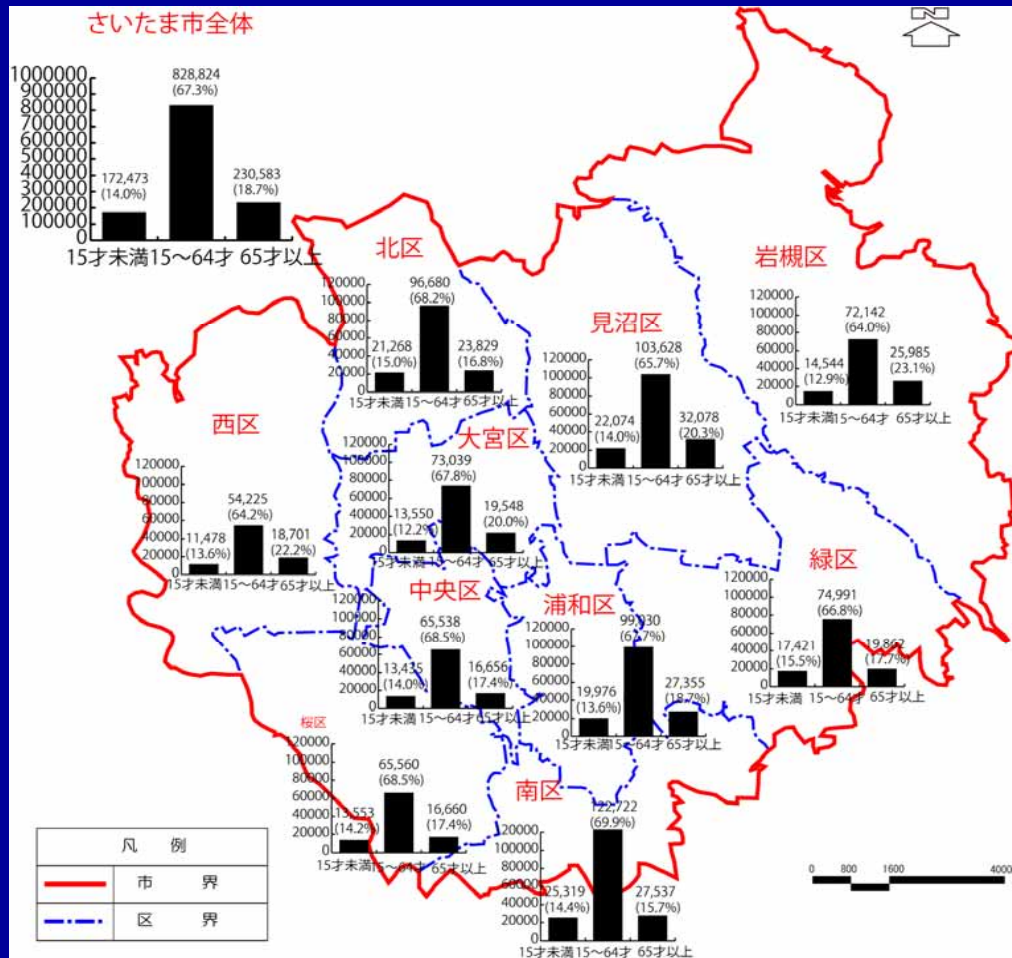
地域	総人口(人)						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
11000 埼玉県	7,054,243	7,082,300	7,034,926	6,923,457	6,752,045	6,526,928	6,257,927
11100 さいたま市	1,176,314	1,201,252	1,209,707	1,207,162	1,194,441	1,172,338	1,141,883
地域	指数(2005年=100)						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
11000 埼玉県	100.0	100.4	99.7	98.1	95.7	92.5	88.7
11100 さいたま市	100.0	102.1	102.8	102.6	101.5	99.7	97.1

- 埼玉県 2010年頃から減少傾向
- さいたま市 2015年頃から減少傾向

(※上記推計値は人口研中位推計ベース)



さいたま市内各区の年齢3階層別人口



●岩槻区の15歳未満の比率は12.9%でさいたま市内各区と比べ二番目に低い。

●15歳～64歳の比率が64.0%と市内で最も低い。

●岩槻区の65歳以上の比率は23.1%と市内で最も高い。

●岩槻区の年齢構成は、さいたま市の中で少子高齢化が最も進行している。

(資料：さいたま市プロフィール)

年齢3階層別の人口

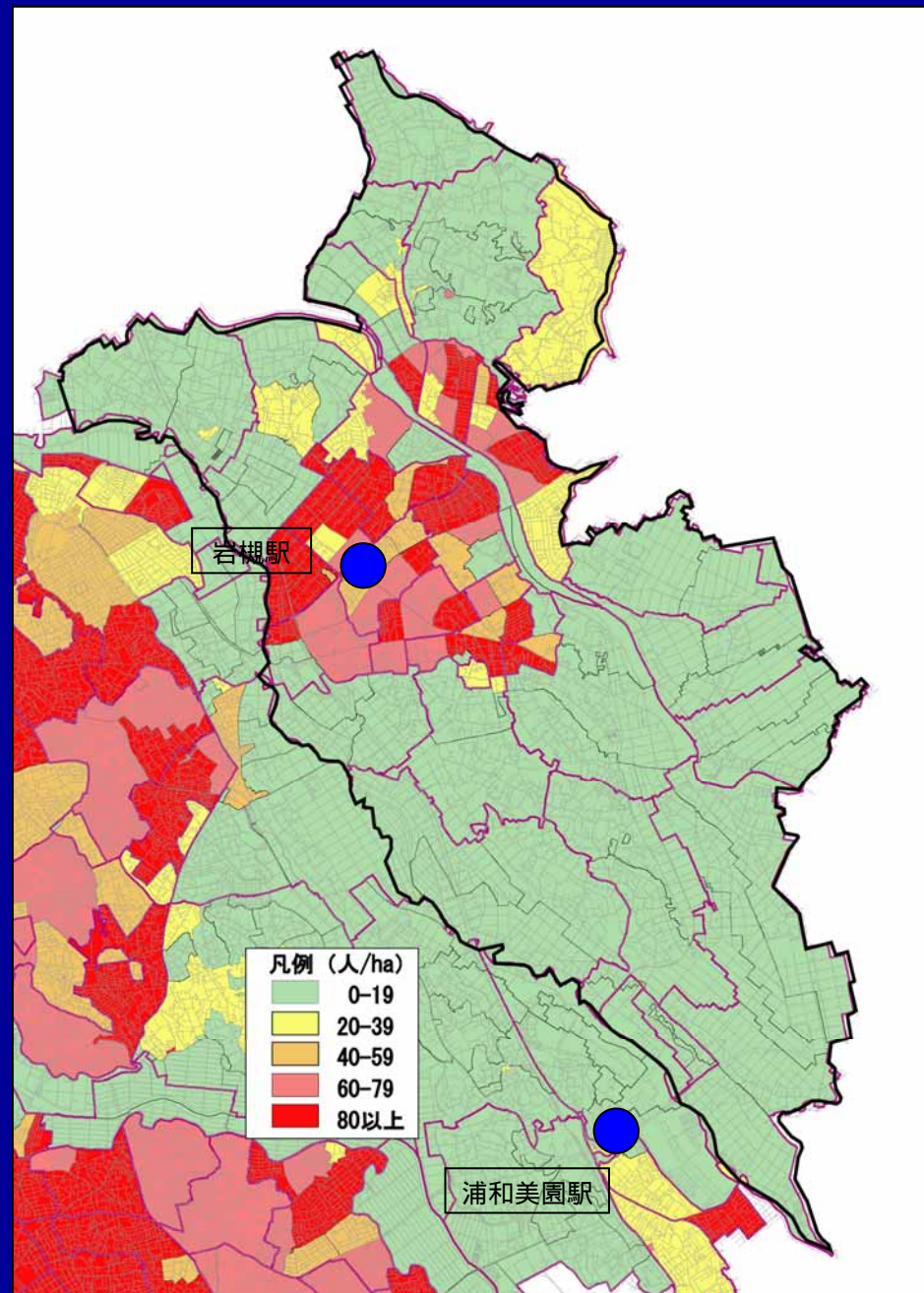
(平成22年11月1日)

年齢区分	さいたま市		西区		北区		大宮区		見沼区		中央区	
年齢	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
14歳以下	172,473	14.00	11,478	13.60	21,268	15.00	13,405	12.23	22,074	13.99	13,435	14.05
15～64歳	828,824	67.28	54,225	64.24	96,680	68.19	74,308	67.78	103,628	65.68	65,538	68.53
65歳以上	230,583	18.72	18,701	22.16	23,829	16.81	21,920	19.99	32,078	20.33	16,656	17.42
人口総数	1,231,880	100.00	84,404	100.00	141,777	100.00	109,633	100.00	157,780	100.00	95,629	100.00

年齢区分	桜区		浦和区		南区		緑区		岩槻区	
年齢	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
14歳以下	13,553	14.15	19,976	13.65	25,319	14.42	17,421	15.52	14,544	12.91
15～64歳	65,560	68.45	99,030	67.66	122,722	69.90	74,991	66.79	72,142	64.03
65歳以上	16,660	17.40	27,355	18.69	27,537	15.68	19,862	17.69	25,985	23.06
人口総数	95,773	100.00	146,361	100.00	175,578	100.00	112,274	100.00	112,671	100.00



延伸地域の人口密度図 (平成17年国勢調査)



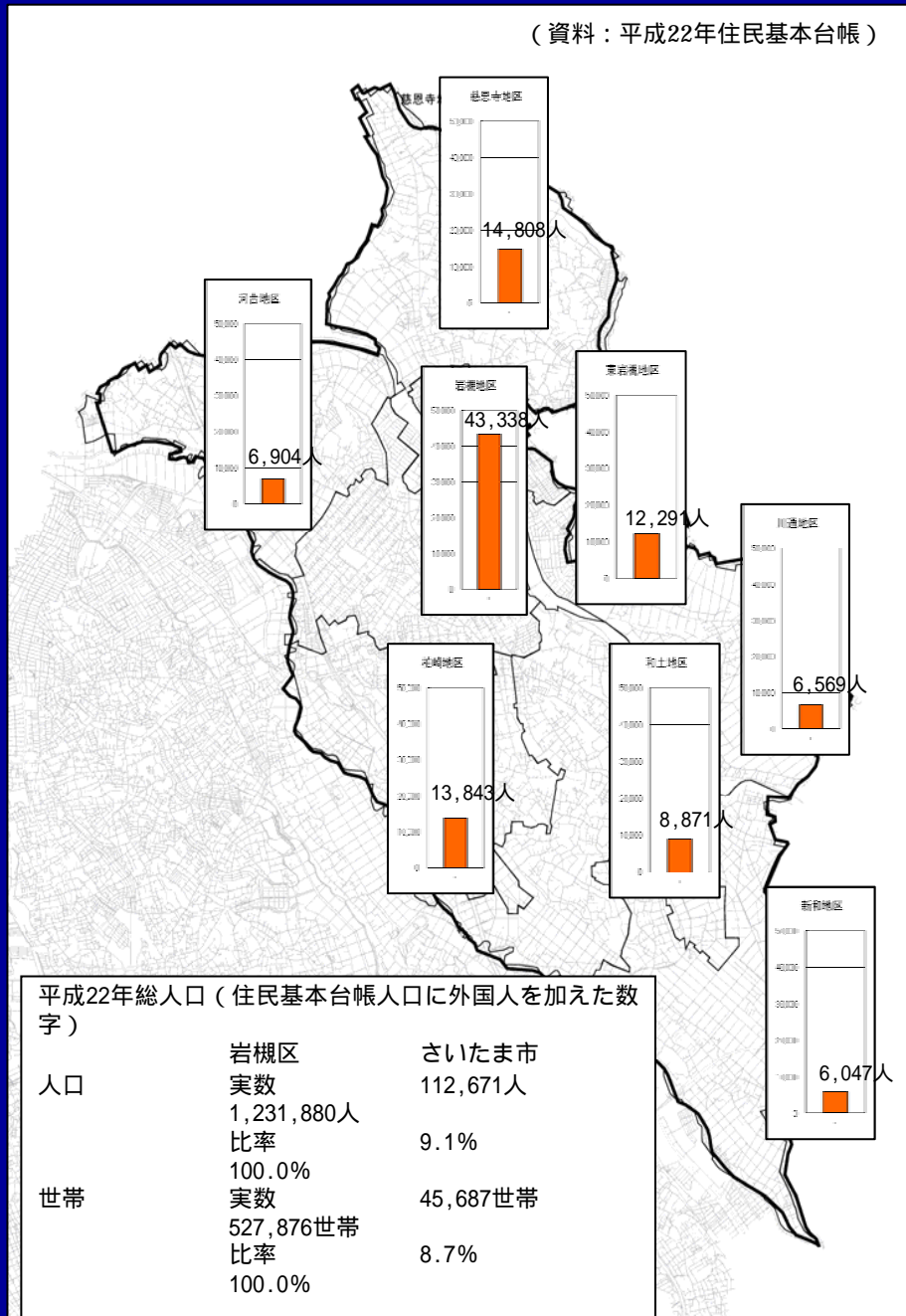
- 岩槻地区、東岩槻地区の人口密度が高く60人/ha以上が多くの部分を占めている。

- 岩槻地区と東岩槻地区以外は人口密度が低い。



岩槻区の人口分布図 (平成22年11月1日現在)

(資料：平成22年住民基本台帳)



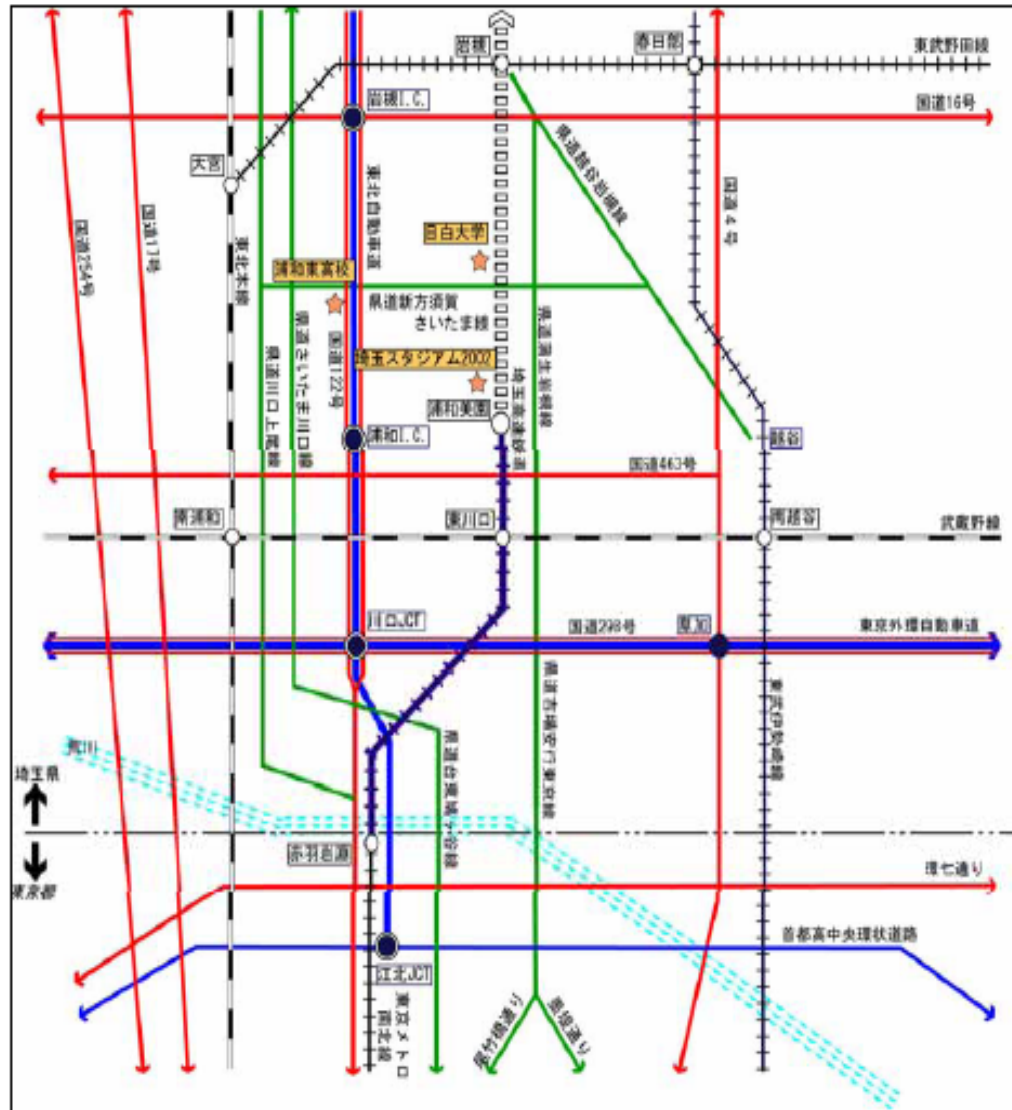
•岩槻区の人口は、平成22年11月現在約112,600人で、さいたま市の総人口の9.1%を占めている。

•区の中心部に位置する岩槻地区が一番多く43,338人となっている。

•岩槻地区から離れるに従い人口も減少していく傾向にある。



延伸地域の現況広域交通情報図



中間駅周辺の現状交通情報

●広域道路

- ・南北軸として駅西側に東北自動車道や国道 122 号があり、岩槻 I.C、浦和 I.C がある。
- ・東西軸として国道 16 号と国道 463 号があり、国道 4 号と接続している。

●地域道路

- ・南北軸として県道蒲生岩槻線がある。
- ・東西軸として県道新方須賀さいたま線がある。

●鉄道

- ・浦和美園駅より都心まで直結している。
- ・岩槻駅より大宮駅又は春日部駅乗り換えで都心と接続している。

●バス

- ・岩槻駅から浦和美園駅や東川口駅まで県道蒲生岩槻線等を通して運行している。
- ・岩槻駅から浦和東高校まで県道蒲生岩槻線、県道新方須賀さいたま線を通して運行している。

地下鉄7号線延伸線の全体概要

■ 地下鉄7号線延伸線の全体概要 < 3駅プラス1駅周辺の現状・課題の整理と今後の検討テーマの総括表 >

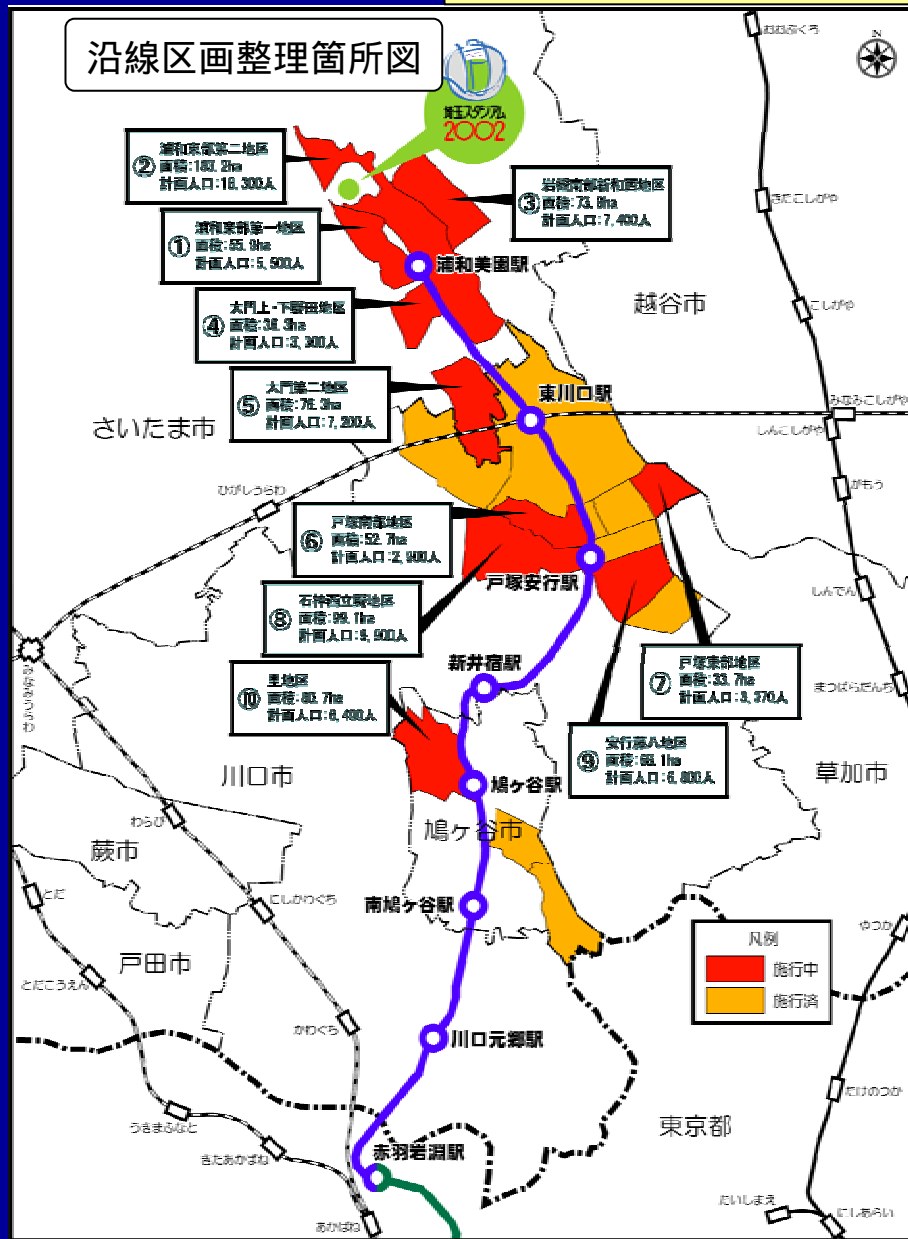
地下鉄7号線延伸線「3駅プラス1駅(臨時)」周辺：3駅の役割・機能を明確にしてまちづくりを進める。				
	浦和美園駅周辺(整備中)	スタジアム臨時駅周辺(整備中)	中間駅周辺	岩槻駅周辺(既成市街地+既設駅との結節)
駅周辺の検討テーマと地域づくりの寄与	 まちづくりの加速に寄与	 円滑なイベント開催に寄与	 新産業拠点振興に寄与	 副都心賑わいづくりへの寄与
現状と特性	駅周辺開発の状況 ・国際アメニティタウン構想として「みそのウイングシティ」を事業中 ・H11.6 都市計画決定、土地区画整理事業約310ha 計画人口 31,200人(3地区) まち開きと大型商業施設 ・平成18年4月に「みそのウイングシティ」のまち開きと大型商業施設が開業され、商業拠点を形成 浦和美園駅(開業H13.3) 乗降客数 ・乗車人数 H20年 5,400人/日 H21年 5,100人/日 H22年 5,200人/日 ・西口駅前広場整備中(H24年度末完成予定) ・美園小学校(仮称)H24.4開校予定	施設規模 ・都市計画公園として計画決定 31.4ha ・収容可能人数 63,700人 駐車可能台数*合計 ・正面駐車場 500台 ・北第1駐車場 100台 ・北第2駐車場 40台 ・東駐車場 400台 スタジアムの活動状況 ・浦和レッズのホームスタジアム ・平成22年観客数約89万人/年 ・浦和美園駅から歩行者専用道路約1.2km(徒歩約15分)	土地利用の混在 ・中間駅が予定されている周辺は、集落地と軽工場及び農地が混在しており、適切な土地利用誘導が必要 地元企業の育成 ・園芸産業や軽工場、一部産業処理施設や物流施設があり、地元産業の振興策が重要 地域資源の点検 ・目白大学 学生1,223名 職員110名 ・目白大学クリニック 来院数100名/日 ・地域に点在する歴史・文化・自然資源の活用が重要 交通空白地区 ・和土団地	高齢化 ・さいたま市内で岩槻区が一番 駅前商業の衰退 ・商業機能の核となるキーテナントの撤退 従業人口の減少 ・伝統産業である人形製造がH9年からH18年までに従業者数で249人、約1,400億円減少。また、岩槻区の従業者数もH8からH19年の間に約1割減少 観光客数の推移 ・岩槻観光客数 近年は年間約125万人で推移している。
主要な課題の整理	ニュータウン建設の促進 ・延伸計画を契機に、岩槻駅(副都心の形成)を含む3駅プラス1駅の地域連携を強化し、ニュータウンの建設促進を図ることが課題 副都心の形成 ・人口定着を促進しつつ、地域の副都心となるような地区整備が課題 ・国際アメニティタウンとしての機能形成 ・公共複合施設の早期建設	スポーツ拠点の形成 ・埼玉スタジアムをはじめ、スポーツ施設が集積する拠点づくりが課題 ・多様なイベント開催に向けての企画提案(スタジアム外を含めた企画提案) ・防災拠点機能の強化 自動車交通対策 ・イベント開催時における自動車交通対策、特に駐車機能の強化が課題	土地利用の誘導策 ・中間駅設置と計画的に整備する区域を明確にし、土地利用の計画的な誘導策が課題 新規産業の誘導策 ・新規産業分野の業種選定と企業誘致策が課題 地域資源の活用 ・中間駅周辺の地域資源のリストアップと活用方策が課題	駅前商業の振興 ・歴史と伝統のある中心市街地の再生が課題 ・再開発ビルへの区役所移転に伴う区役所跡地利用が課題 産業振興への支援 ・岩槻区全体の産業振興策が課題 ・人形の芸術文化の振興、海外展開 観光振興への支援 ・観光・交流人口を確保する施策展開が課題
課題解決に向けての検討テーマ	総合的なまちづくりの展開 ・副都心形成に資するような総合的なまちづくり(「みそのウイングシティ」に基づく、まちづくりの展開) ・延伸地域の「イゾ」向上を図るような各種イベントの展開(終端駅から延伸される効果の活用) ・他地域(横浜 etc)のイベント等との連携 ・国際化への道のりの検討 ・東京ドーム(後楽園)と埼玉スタジアムのスポーツ交流	総合的なスポーツ拠点の形成 ・埼玉スタジアムを核に、スポーツ施設が集積する総合的な拠点づくり 総合的な交通対策の実施 ・イベント開催回数の増加による鉄道利用の促進・3駅周辺の駐車場活用によるパークアンドライドの展開 ・芝面以外の施設スタンド・放送設備等活用、周辺公園区域や駐車場の活用	中間駅を核にしたまちづくり ・新しいまちづくり(健康・福祉・医療等)の展開と既存集落・園芸産業との融合 新規産業の誘導 ・地元大学等の連携や核となる企業等の誘致による地元産業との連携 周辺の分布する地域資源のネットワーク ・中間駅周辺の地域資源と周辺に分布する資源の活用と新規産業を併せた地元の振興政策的課題 ・総合振興計画・都市計画マスタープランへの位置付け、農振農用の調整、都市計画決定の手続き	駅前商業のにぎわいづくり ・中心市街地活性化のために重要な要素となる岩槻駅周辺の活性化・利用者の増加 地元企業の振興 ・地下鉄7号線延伸区間の地元企業への振興 観光・交流人口の増加 ・地域の観光、レクリエーション施設のネットワーク ・多様な観光客を呼び込むための仕掛け ・岩槻学等歴史観光・イベントの開催

浦和美園駅周辺の現状と課題

浦和美園駅周辺まちづくりの検証

浦和美園駅周辺土地利用

沿線区画整理箇所図

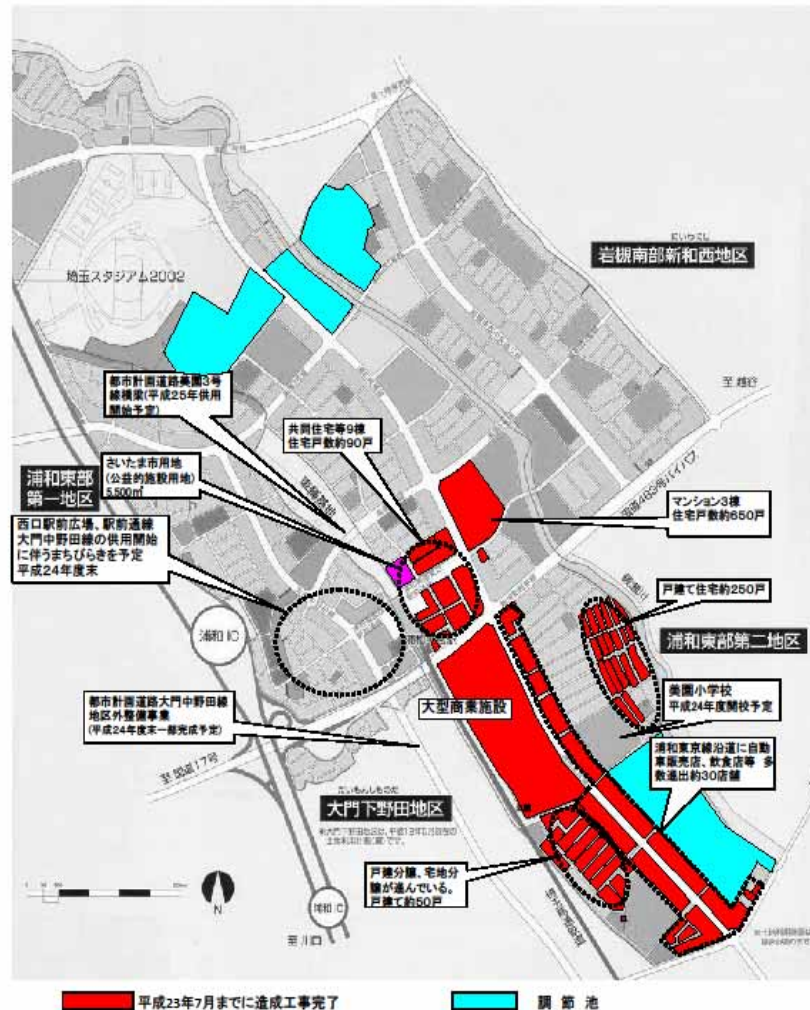


土地利用計画図



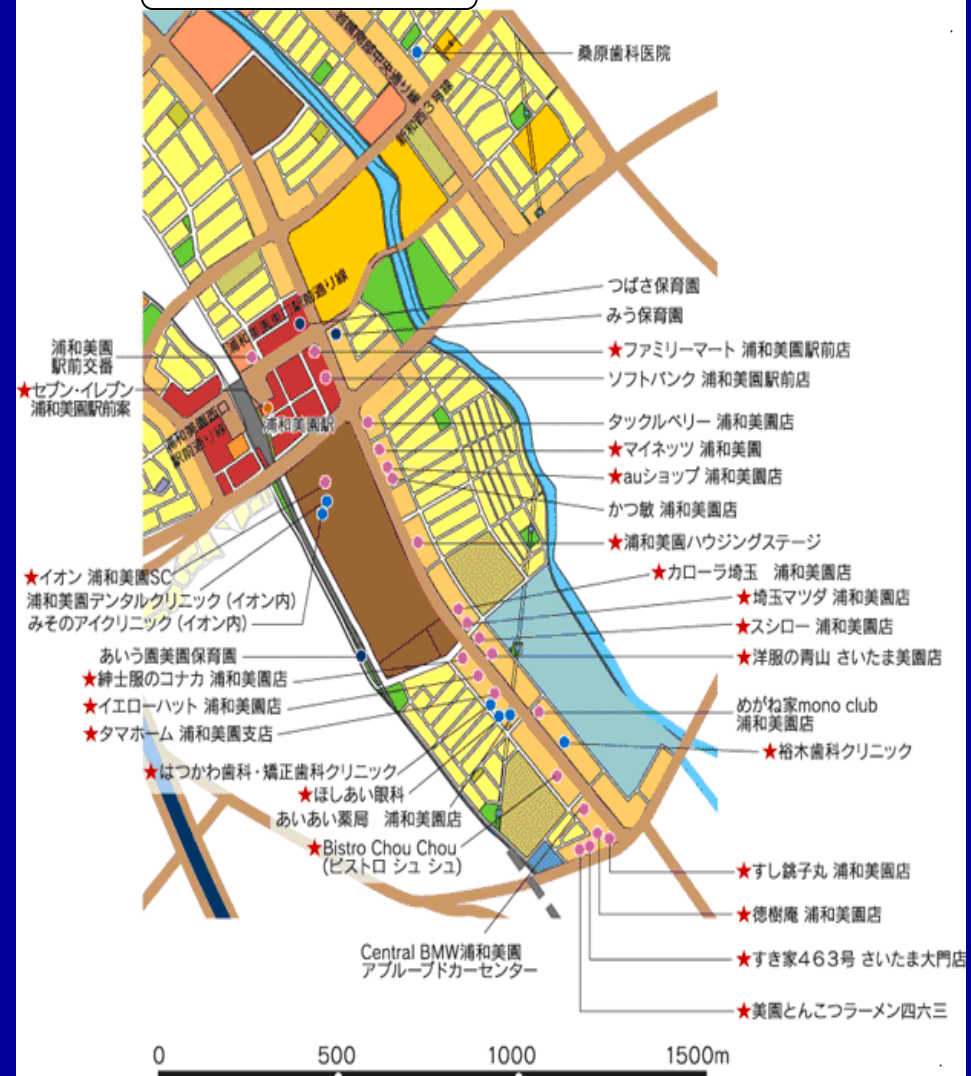
浦和美園駅周辺地区土地利用状況

浦和美園開発状況

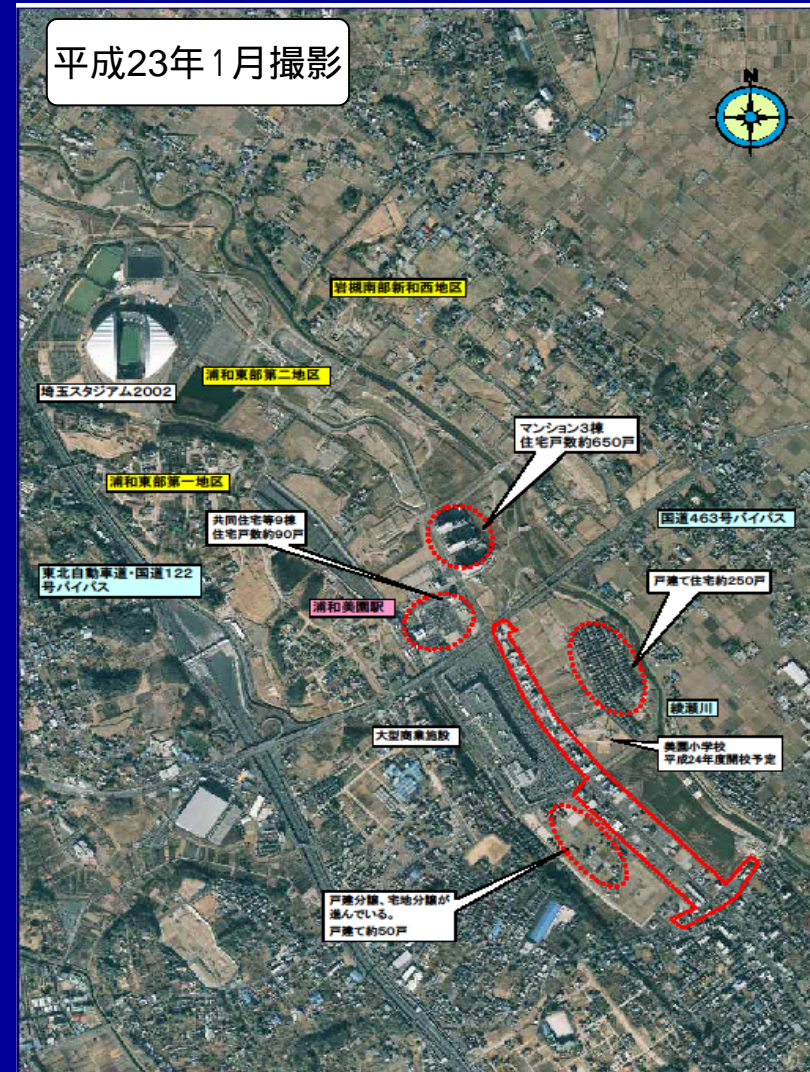
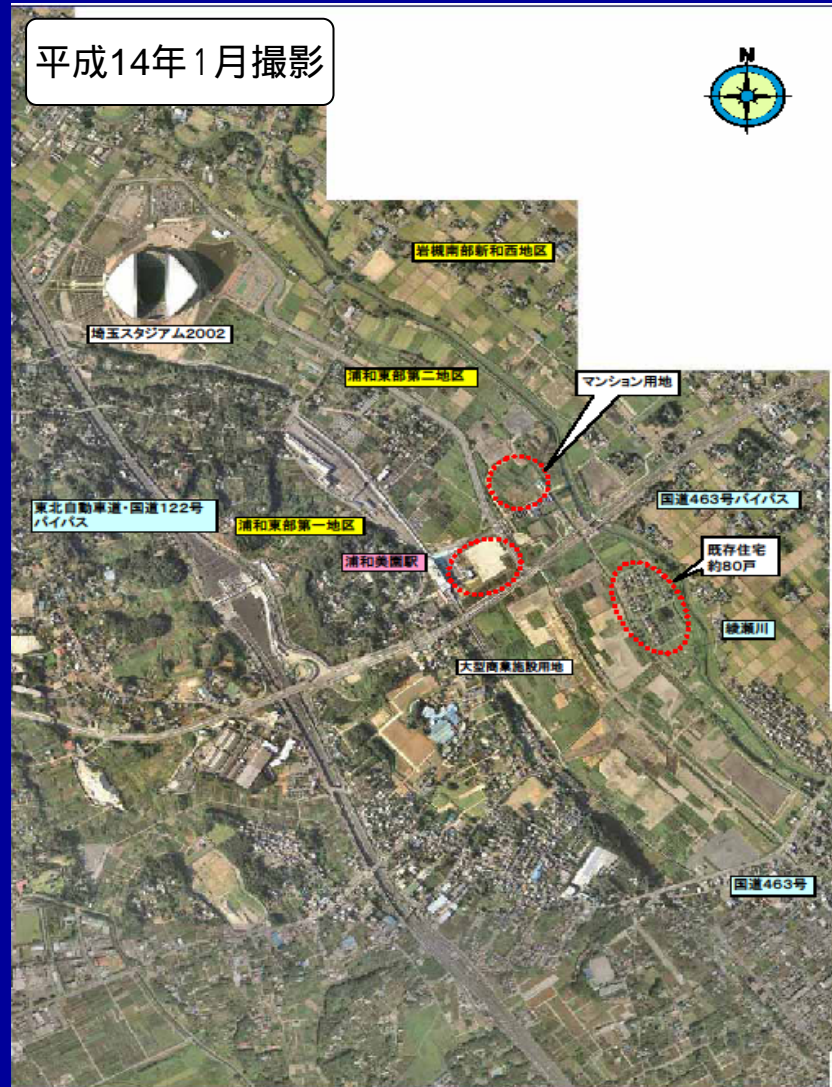


(資料:さいたま市浦和美園まちづくり事務局及びUR都市)

浦和美園出店状況



浦和美園駅周辺地区航空写真



埼玉スタジアム周辺の現状と課題

埼玉スタジアム2 2公園の概要



概要	施設																																
約30haの公園は埼玉スタジアム2002を主施設として、サブグラウンド3面、フットサルコート2面のサッカーを中心とした公園です。常に利用できる施設としては、水の広場、ちびっこ広場、もみの木広場を配置し、憩いと安らぎのある公園をめざしています。また、四季折々の花が楽しめるように、外周緑地帯、ジョギングコース沿いには、サクラ(春)とモミジ(秋)などの花木類を配し、低木はアジサイやラベンダー、ミツバツツジなどで彩ります。	<table border="0"> <tr> <td>サブグラウンド(105m×68m、芝)</td> <td>2面(競技照明付1面)</td> </tr> <tr> <td>サブグラウンド(105m×68m、人工芝)</td> <td>1面(競技照明付)</td> </tr> <tr> <td>フットサルコートA(38m×18m、人工芝)</td> <td>1面(競技照明付)</td> </tr> <tr> <td>フットサルコートB(25m×15m、人工芝)</td> <td>1面(競技照明付)</td> </tr> <tr> <td>緑の広場</td> <td>1.4ha</td> </tr> <tr> <td>水の広場(噴水、流れ)</td> <td>3.5m×170m</td> </tr> <tr> <td>ジョギングコース</td> <td>1.8km</td> </tr> <tr> <td>休憩舎</td> <td>4か所</td> </tr> <tr> <td>トイレ(屋外トイレ、チームハウス)</td> <td>2か所</td> </tr> <tr> <td>水飲み場</td> <td>7か所</td> </tr> <tr> <td>正面駐車場</td> <td>500台収容</td> </tr> <tr> <td>北駐車場</td> <td>100台収容</td> </tr> <tr> <td>北第2駐車場</td> <td>40台収容</td> </tr> <tr> <td>東駐車場</td> <td>400台収容</td> </tr> <tr> <td>駐輪場</td> <td>100台収容</td> </tr> <tr> <td>*歩行者専用道路(浦和美園駅からスタジアム公園まで)</td> <td>1.2km</td> </tr> </table> <p>主な植栽 / サクラ、モミジ、ミツバツツジ、アジサイ、ラベンダー、ハナショウブ</p>	サブグラウンド(105m×68m、芝)	2面(競技照明付1面)	サブグラウンド(105m×68m、人工芝)	1面(競技照明付)	フットサルコートA(38m×18m、人工芝)	1面(競技照明付)	フットサルコートB(25m×15m、人工芝)	1面(競技照明付)	緑の広場	1.4ha	水の広場(噴水、流れ)	3.5m×170m	ジョギングコース	1.8km	休憩舎	4か所	トイレ(屋外トイレ、チームハウス)	2か所	水飲み場	7か所	正面駐車場	500台収容	北駐車場	100台収容	北第2駐車場	40台収容	東駐車場	400台収容	駐輪場	100台収容	*歩行者専用道路(浦和美園駅からスタジアム公園まで)	1.2km
サブグラウンド(105m×68m、芝)	2面(競技照明付1面)																																
サブグラウンド(105m×68m、人工芝)	1面(競技照明付)																																
フットサルコートA(38m×18m、人工芝)	1面(競技照明付)																																
フットサルコートB(25m×15m、人工芝)	1面(競技照明付)																																
緑の広場	1.4ha																																
水の広場(噴水、流れ)	3.5m×170m																																
ジョギングコース	1.8km																																
休憩舎	4か所																																
トイレ(屋外トイレ、チームハウス)	2か所																																
水飲み場	7か所																																
正面駐車場	500台収容																																
北駐車場	100台収容																																
北第2駐車場	40台収容																																
東駐車場	400台収容																																
駐輪場	100台収容																																
*歩行者専用道路(浦和美園駅からスタジアム公園まで)	1.2km																																

埼玉スタジアム2002パンフレットより



埼玉スタジアムスポーツクラブ 第4グラウンド(人工芝)



グラウンド・フットサル

SPORTS CLUB
埼玉スタジアムスポーツクラブ
スポーツクラブ
第4グラウンド(人工芝)

埼玉スタジアム・スポーツクラブ(会員制)は市民の皆様が生産にわたってスポーツを楽しむことができる拠点施設として、また地域コミュニティの醸成を図るために創設されました。

(財)日本サッカー協会が公認した人工芝グラウンド(第4グラウンド)ではクラブが運営するサッカースクールをはじめ、フルサイズ、ハーフサイズ、フットサルなどいろいろな形でサッカーを体験することが出来ます。また、隣接するクラブハウスではフィットネス、スポーツに関する講座なども開催できるようになっています。埼玉スタジアムはスポーツを「みる」だけでなく、「する」、「まなぶ」ことの感動を提供しています。

クラブハウス

GROUND FUTSAL

第2・第3グラウンド

公園内には良質な天然芝グラウンド2面があり、週末ともなれば、アマチュア大会の決勝戦やサッカースクールなど、各世代のサッカー愛好家が集い、ピッチを賑わしています。

第2グラウンドの芝は3種混合の冬芝で、メインスタジアムのピッチと同様の芝を使用しています。第3グラウンドは夏芝で、成長著しいキッズの足に優しい仕様になっています。

公園内北側に位置しているフットサルコート(屋外)はA及びBの2面があり、Aコートは38×18mの国際規格を満たし、Bコートは25×15mの国内標準規格を満たしています。利用率の高い夜間には、500ルクスの照明を備えており、子どもから大人まで各種の大会にも対応できる施設となっています。

フットサルコート

レストランプラザ・ギャラリー



スタジアムギャラリー

2Fコンコースでは、8つのショーケースで楽しさを演出します。

最新から始まるサッカーの歴史、地元Jリーグ球団やアマチュアサッカーの活躍の様子を、ユニホームやグッズとともに楽しく紹介します。

また、FIFAワールドカップ™にまつわる品々を国際色豊かに展示します。

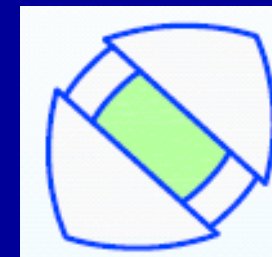
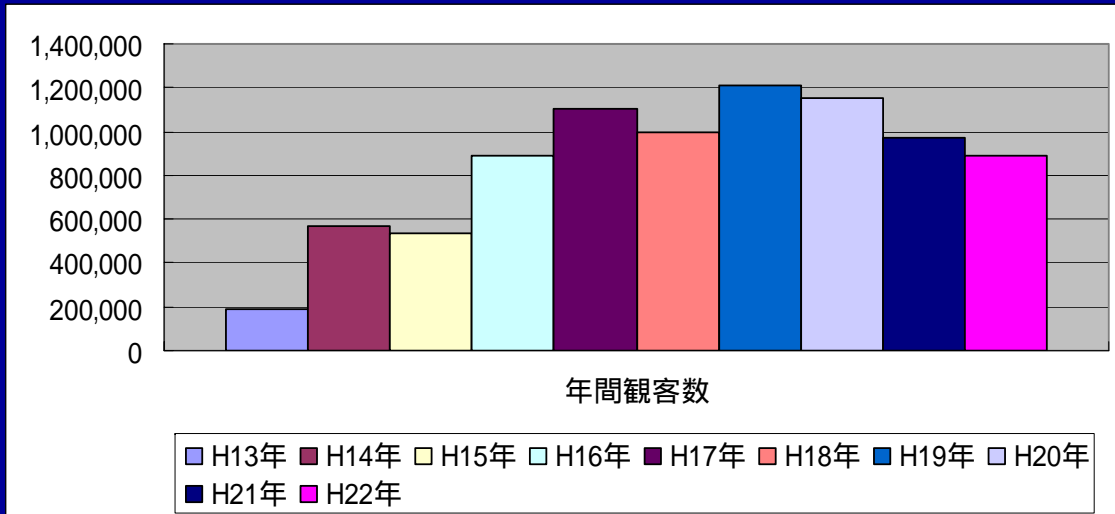
さらに一流選手のプレー写真などをグラフィック化し、サッカーの楽しさや興奮を伝えます。

レストランプラザ

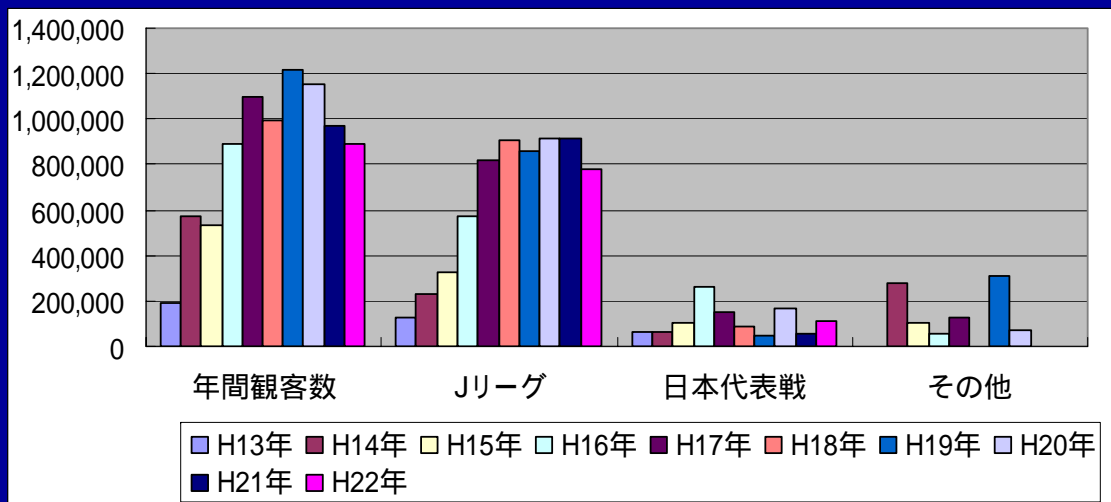
1Fレストランプラザではスタジアム見学ツアー(有料)の受付とともに、スタジアムオリジナルグッズやサッカーグッズの販売も行っている公園利用者やフットサル利用者などの憩いの場として利用できるスペースとなっています。

●ストライカー
スタジアムの歴史を特徴的に人化したマスコットキャラクター

埼玉スタジアム2 2の観客数の推移



埼玉県資料をグラフ化



サッカー	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	累計
年間観客数(1+2+3)	192,557	571,870	534,656	890,718	1,099,866	994,572	1,213,924	1,153,756	973,853	893,267	8,519,039
Jリーグ・天皇杯(1)	130,724	230,340	327,203	573,962	818,601	906,905	861,405	915,224	916,577	780,659	6,461,600
日本代表戦(2)	61,833	61,816	105,036	259,093	153,780	87,667	45,091	169,450	57,276	112,608	1,113,650
その他(3)	0	279,714	102,417	57,663	127,485	0	307,428	69,082	0	0	943,789

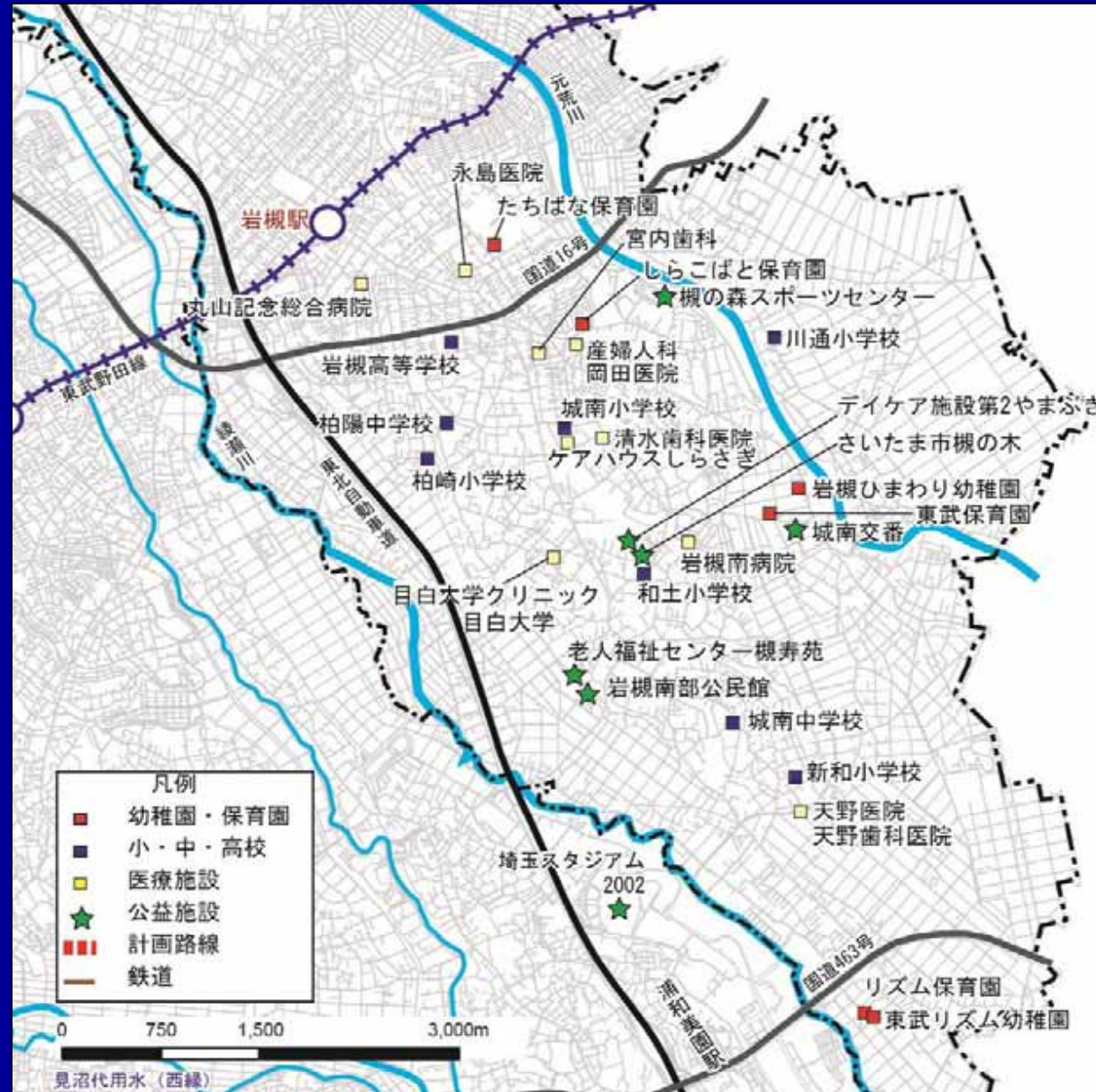
埼玉スタジアム2 2公園における指定管理者の基本的な方針

- 1 . 感動を生む劇場型サッカー観戦スタジアムを目指します。
- 2 . サッカーを主軸とするスポーツ振興とにぎわいを創出します。
- 3 . 地域と連携し、常に人々が集い交流し賑わう公園づくりを進めます。
- 4 . 日本を代表するスタジアムの知名度と施設を活かした事業展開を図ります。
- 5 . 防災支援機能を備えた安心・安全な公園を実現します。

サッカーの夢と感動を伝える
快適・安全サッカーパーク

延伸線中間部の現状と課題

公共公益施設分布図



<都市計画>

- ・中間部は市街化調整区域
- ・農振農用の調整
- ・土地利用の混在

<交通>

- ・岩槻駅から東川口駅を結ぶ路線バス

地域森林計画対象民有林位置図



< 現況の概要 >

- 屋敷林を中心とした樹林地が形成されている。
- 神社の後背林など社寺林が広く分布している

資料:さいたま市森林整備計画書



延伸地域付近の現況写真



岩槻駅周辺の現状と課題



人形の町“岩槻”

歴史

- 江戸時代の初め、日光東照宮の造営、修築にあたった工匠たちにより、人形づくりを手がけたのが起こりと伝えられている。
- 岩槻の周辺は昔から桐の産地で、筆筒や下駄などの桐細工が盛んに行われており、工匠たちは、この桐の粉を糊と練り固めて人形をつくるととても発色がよく、また岩槻の水が胡粉(ごぶん)に適していることを発見した。
- このようにして作られた桐塑(とうそ)人形は丈夫で壊れにくく、また土に比べ精巧に作ることができ量産にも適していたため、以来、岩槻の代表的な地場産業として発展し、現在に至っている。



豊かな歴史・文化財

文化財

- ・国指定の真福寺貝塚や古式土俵入りを始め、**多様な歴史・文化資源を持つことが大きな特長**である。
- ・**指定文化財は、44件**を数え、**市全体の約8%**を占めている。
- ・歴史・文化資源は、旧城下町である本町を中心に分布しており、**いくつかの散策ルートが設定**されている。



図.岩槻中心部散策マップ



観光のまちとしての現状



目的別観光客数の推移及び日帰り・宿泊別の内訳

- 岩槻への観光客は、H18を底として回復傾向にあるが、H16の年間156万人という水準からは30万人程度低い、**年間125万人の水準で推移**している。
- 観光客の殆どが日帰り客**である。

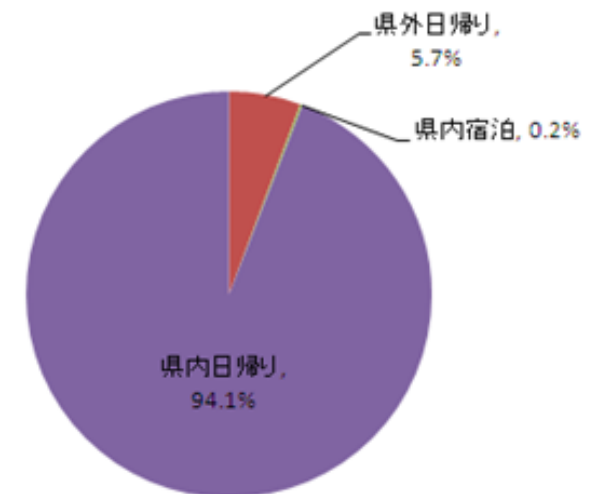
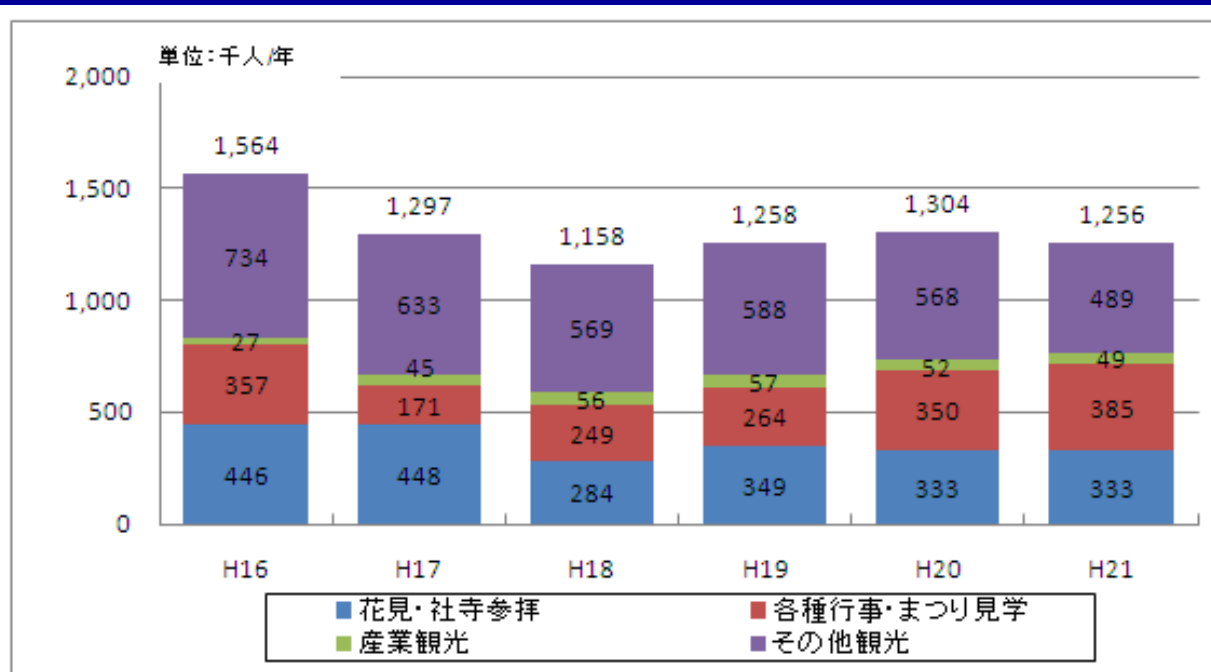


図.目的別観光客数の推移

出典：入込観光客「推計」調査

市内鉄道駅乗降客数の内訳

- ・**岩槻駅の乗降客数は約3.6万人/日**であり、さいたま市の副都心の中では、武蔵浦和、宮原駅に次いでおり、宮原駅よりやや少ない程度である。
- ・**東武野田線の駅の中では、大宮駅に次いで乗降客数が多い。**

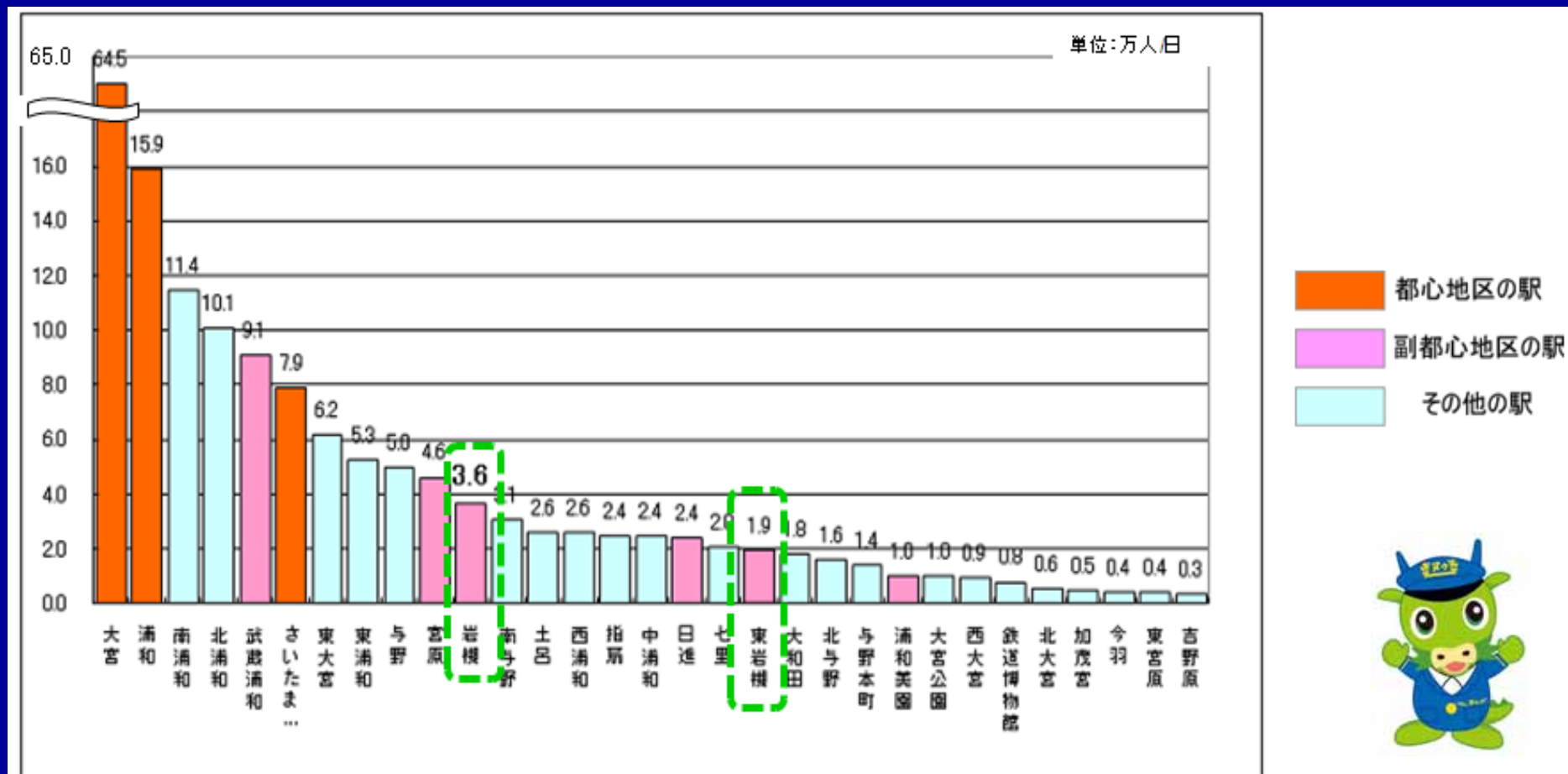
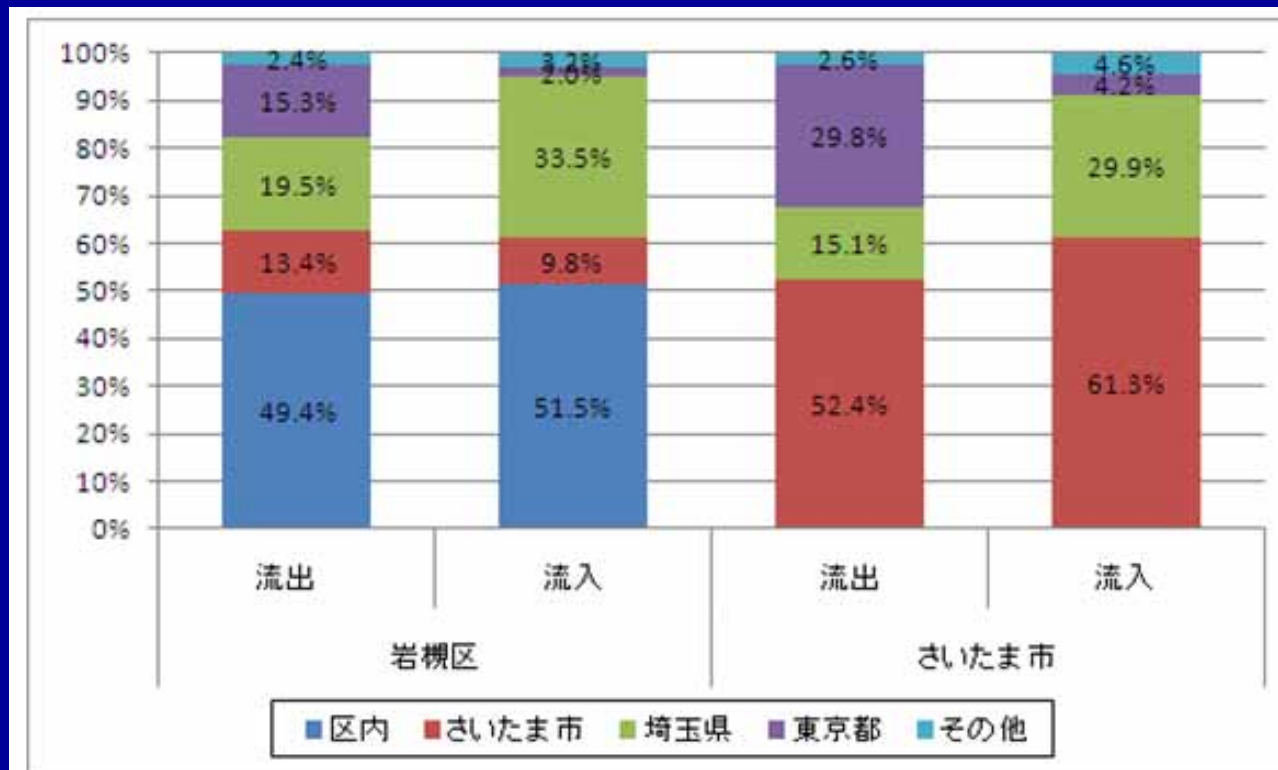


図.駅別の乗降客数

出典:さいたま市内各駅乗降客数一覧(H22.3)

通勤通学による流出・流入の状況（15歳以上）

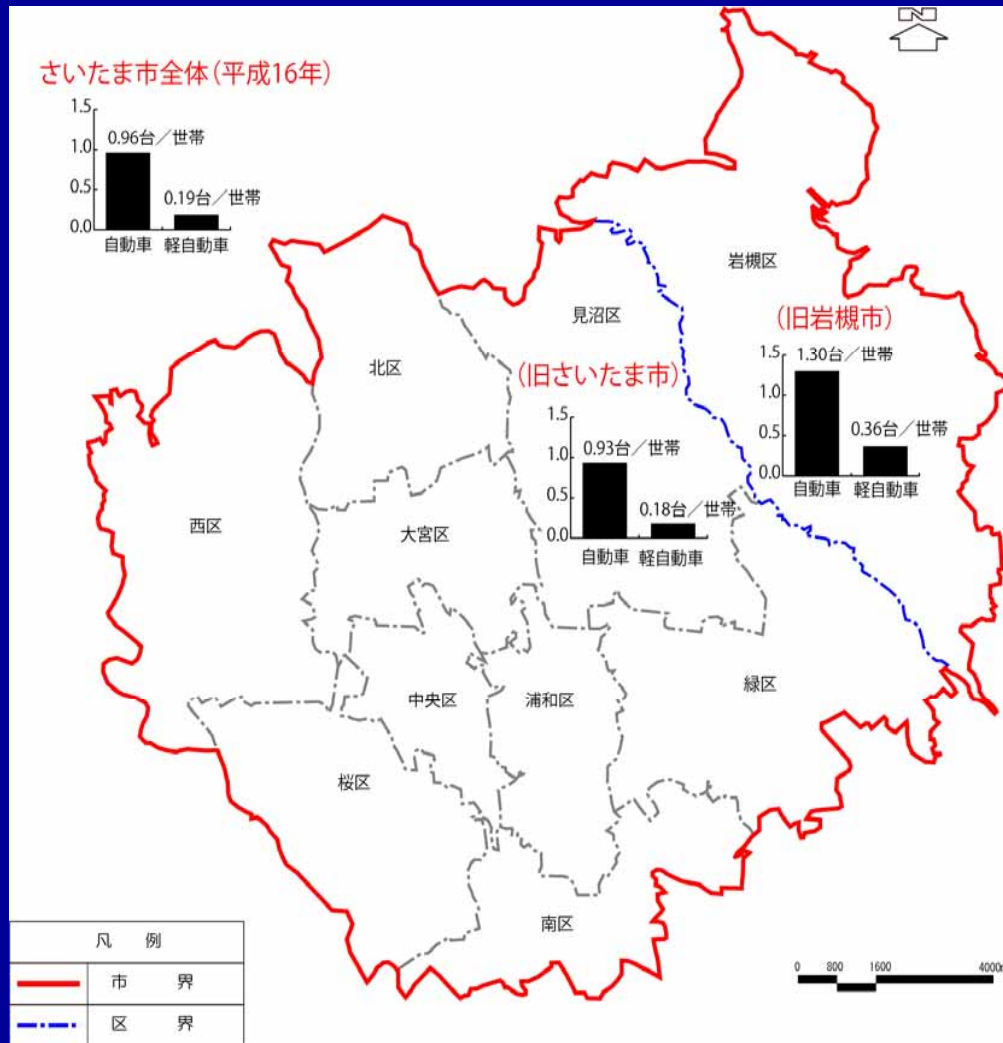
- 岩槻区民の約5割近くが区内に通勤・通学しており、岩槻区を含むさいたま市内への通勤・通学は約6割となっている。
- さいたま市全体では、東京都への通勤・通学者の割合は約30%だが、岩槻区のみで見ると約15%となっており、東京都への通勤・通学者の割合が低い。



出典:平成17年国勢調査

図.H17の人口流入・流出の状況

岩槻区自動車保有台数



•旧岩槻市と旧さいたま市を比べると、旧岩槻市は自動車、軽自動車ともに1世帯当たりの登録台数が多い。

•旧岩槻市の自動車依存度の高さが確認できる。

一世帯当たり自動車登録台数 (平成16年)

各年3月31日

年	区分	世帯数 (世帯)	登録台数		一世帯当たり自動車台数	
			自動車 (台)	軽自動車 (台)	自動車 (台)	軽自動車 (台)
平成16年	旧さいたま市	431,099	401,009	76,674	0.93	0.18
	旧岩槻市	41,718	54,084	14,963	1.30	0.36
	さいたま市全体	472,817	455,093	91,637	0.96	0.19

(資料：さいたま市統計書 - 平成17年版)



地下鉄7号線延伸実現への提言（要旨）

提言1

「住み続けたい」まちづくりの推進

地下鉄7号線の延伸によりさいたま市東部地域に広がる交通不便地域を解消すべきです。

駅前広場や道路整備、バス網再編など地下鉄延伸に併せた公共交通ネットワークの充実を図るべきです。

提言2

将来を見据えた「攻め」のまちづくりの推進

中間駅周辺では、企業誘致等を採り入れた積極的なまちづくりを推進することにより、経済効果の創出や地下鉄7号線の需要の向上を図るべきです。

提言3

「訪れたい」まちづくりの推進

地下鉄7号線を活用した回遊ルートなどの整備を行い、岩槻地域の歴史文化資源や埼玉スタジアム2002等を有効に活用することにより、「国際都市さいたま市」の実現を図るべきです。

提言4

利用しやすくなる「魅力ある」鉄道の実現

延伸の際には、快速運転の導入による速達性の向上や、運賃割引の導入による利用者の負担軽減により、誰もが利用しやすい地下鉄を実現すべきです。

平成20年11月

さいたま市地下鉄7号線調査・検討市民協議会